



第2章 第1次計画の評価



1 目標値達成状況

第1次計画では21項目の指標を設定し、目標値を定めていました。21項目中、7項目が目標値を達成しました。目標値には達していませんが、改善傾向が見られた項目は、6項目でした。一方、悪化した項目は、3項目でした。全項目のうち改善した割合は、61.9%です。

達成状況は、以下の4つの基準で表しています。

- ◎：目標達成
- ：目標達成していないが改善傾向
- △：変わらない（変化が2%以内）
- ×：悪化している

【乳幼児期】

指標	策定時 (H23)	現状値 (H28)	目標値 (H29)	達成 状況
むし歯のない3歳児の割合	87.3%	87.9%	90.0%	△
大人が毎日仕上げみがきをする割合	1.6歳児	78.4%	85.1%	増加 ◎
	3歳児	87.0%	90.0%	増加 ◎
	4歳児	68.5%	77.4%	増加 ◎
よく噛んで食べている4歳児の割合	69.2%	73.8%	83.0%	○

【学童・思春期】

指標	策定時 (H23)	現状値 (H28)	目標値 (H29)	達成 状況
むし歯のない12歳児の割合	64.6%	71.6%	73.0%	○
健康な歯肉を持つ子の割合	中学生	74.4%	75.8%	80.0% △
	高校生	74.6%	78.0%	80.0% ○
休みの日にお菓子をだらだら食べる子（1日3回以上お菓子を食 べる子）の割合	小学生	13.7%	15.3%	減少 ×
	中学生	19.8%	14.8%	減少 ◎
ゆっくりよく噛んで食べるよう に気を付ける子の割合	小学生	64.9%	70.3%	76.0% ○
	中学生	54.5%	55.9%	70.0% △

【青壮年期】

指標		策定時 (H23)	現状値 (H28)	目標値 (H29)	達成 状況
60歳で24本以上、自分の歯を持つ人の割合	55～64歳	80.1%	82.3%	増加	◎
過去1年間に歯科健康診査を受診した人の割合		39.9%	41.4%	65.0%	△
歯ブラシ以外に歯間ブラシやデンタルフロス等を使っている人の割合	20～39歳	17.2%	25.1%	33.0%	○
	40～64歳	31.1%	31.3%	52.0%	△
歯科健診・歯みがき指導等、歯科保健に関する事業を行っている障害福祉サービス事業所（通所）の数		5事業所	7事業所	全事業所	○

【高齢期】

指標		策定時 (H23)	現状値 (H28)	目標値 (H29)	達成 状況
80歳で20本以上、自分の歯を持つ人の割合		52.5%	45.2%	増加	×
過去1年間に歯科健康診査を受診した人の割合		58.2%	54.0%	65.0%	×
お口の体操を知っている人の割合		30.9%	55.4%	50.0%	◎
訪問歯科健診事業（県事業）の利用者の件数		45件	58件	増加	◎

2 重点的に取り組んだ施策

(1) 障がいのある方に対する歯科保健活動

平成25年度・26年度に、県のモデル事業「住民参加型健口づくり支援事業」を受け、障がいがあっても安心して歯や口腔をよい状態で管理できることを目指して取り組みました。

障がい関係者と歯科専門職が交流し、意見交換を行いました。障がい関係者からは、「歯科に関しては優先順位が低い」「歯科医療機関の情報が不足している」などの意見がありました。また、歯科専門職からは「障がいに対する理解や知識が不足している」「障がいのある方への治療等の技術の習得が必要」などの意見がありました。

歯科専門職が障がい福祉施設の見学を行ったり、研修会を開催したり、お互いに情報交換を行いながら交流を深めていきました。

モデル事業の中では、市内の歯科医院の連絡先や休診日、身障者用トイレやスローストップ等の状況をまとめた「歯科医院一覧*」、スムーズに歯科医院を受診できるようにするための「サポートシート*」をお互いの声を反映させながら作成しました。

2年間のモデル事業終了後は、サポートシートを活用した歯科衛生士による訪問事業、障がいのある方を対象とした歯科健康相談などの事業を立ち上げ、取組を継続しています。

*「歯科医院一覧」「サポートシート」は、第4章 資料編（P61～P64）に掲載しています。



【歯科専門職による研修会】



【障がい関係者と歯科専門職の意見交換会】

（2）フッ化物応用の推進

柏崎市は、他市町村に先駆け、昭和56年から行政歯科衛生士の配置を行い、健診や健康教育などに重点を置いた歯科保健施策に積極的に取り組み、子ども達のむし歯予防対策でも、一定の成果を上げてきました。しかし、子ども達のむし歯の数は、減少傾向が見られるものの県平均より多く、差が開いている現状があります。

県歯科保健医療計画で推奨されているフッ化物洗口について、合併前の高柳地域では昭和60年から保育所（保育園）と小学校で先行して始まり、その後、平成15年から中学校でも実施されています。また、西山地域では昭和61年から小学校でフッ化物洗口が始まり、合併後は柏崎市内でフッ化物洗口を実施している地域と実施していない地域があることも課題でした。

柏崎市歯科保健推進会議では、子ども達のむし歯予防対策として、フッ化物応用に取り組んではどうかとの意見があり、平成27年度に、園や学校関係者を構成員に加えた「フッ化物応用に関する検討会」を立ち上げ、全市におけるフッ化物洗口の実施に向けて検討を始めました。

検討会では、園や学校での具体的なフッ化物洗口の実施方法等について協議を行い、スムーズな開始を目指して職員への研修も行いました。平成28年度には、各園、各学校でフッ化物応用保護者説明会を開催し、保護者の方に理解を深めていただくとともに市民講演会を行い、フッ化物応用の効果について広く周知を行いました。保護者説明会後に行った保護者を対象とするアンケートでは、園や学校でフッ化物洗口を実施する場合、希望すると回答した割合が90%以上となりました。

第2章 第1次計画の評価

フッ化物洗口の実施については慎重な意見もありましたが、この保護者アンケートの結果を受けて、子ども達の更なるむし歯予防対策の一つとして、平成29年度から、全公立保育園と一部を除く私立保育園、全小学校・全中学校においてフッ化物洗口を実施しています。

また、乳幼児期からの継続したフッ化物応用を行うため、これまでの1歳6か月児歯科健診に加えて、平成29年度からは、3歳児健診においてもフッ化物歯面塗布を開始しました。

*「フッ化物応用保護者説明会資料」は第4章 資料編(P66～P72)に掲載しています。

【フッ化物洗口に関する実施状況】（平成29年12月末現在）

	実施施設数	在籍者数	希望者数	希望率
公立保育園（4～5歳児）	16園／16園中	478人	461人	96.4%
私立保育園（4～5歳児）	10園／12園中	414人	401人	96.9%
私立幼稚園	実施なし			
小学校	20校／20校中	3,915人	3,744人	95.6%
中学校	12校／12校中	2,004人	1,849人	92.3%



【市民講演会】



【柏崎市歯科保健計画 計画期間：平成25年4月～平成30年3月】